

第 10 回平戸市行政改革推進委員会議要点録（事務局用）

日 時	平成 29 年 1 月 23 日（月） 13：00～14：30
場 所	平戸市役所 3 階 会議室 C
出席委員	別紙のとおり
事務局	松田総務部長、（行革推進課）平松課長、石田班長、長嶋主事

【次第】

1. 開会
2. 議題
 - （1）公共施設等総合管理計画について
 - （2）本委員会諮問事項に対する答申について
3. その他

委員名	質疑等
事務局	定刻になったので、第 10 回平戸市行政改革推進委員会を始める。開会にあたり、松永会長より一言あいさつをお願いします。
会長	皆様、本日はお集まりいただきありがとうございます。本日は、公共施設等総合管理計画における素案について議論いただく。また、今回が最後の行政改革推進委員会ということで、本委員会の諮問事項である「行政改革の取り組み」および「公共施設等の適正化」についての答申内容を精査いただきたい。それでは、事務局より説明をお願いします。
事務局	資料に沿って、公共施設等総合管理計画（案）を説明。
会長	前回示されていた公共施設数と異なる理由はなにか。
事務局	複数棟で構成される住宅を 1 施設とカウントしていたが、建築年ごとにまとめたため、施設の数が異なっている。前回との差については整理し把握している。
委員	P46 の大島支所、大島離島開発総合センターについては、建替前の情報になっているのが気になる。
事務局	このデータが平成 27 年度末の情報で整理しているため、平成 28 年度の情報は反映されていない。それぞれの表について、いつ時点のデータなのか注釈を入れて対応したいと考えている。
委員	西暦と和暦について、平成が終わる可能性がある中、今後 40 年の計画が和暦表現で良いのか気になる。
会長	和暦表現の場合は、括弧書きで西暦を入れるといいかもしれない。

委員	P16 からの更新等費用の見通しは、現在の施設を全て維持した場合の予測を示しており、施設が減れば、費用も減ると考えて良いのか。
事務局	その通り。
委員	P23 の推計条件について、昭和 59 年以前と以降で取得価格の基準を変えられているが、将来的にこの数字が有効なのか。否定するわけではないが、建築価格は変動が大きいため、この試算通り進むわけではないということを意識しておいていただきたい。次に、少子高齢化は避けられない状況なので、少子高齢化を受け入れるというスタンスで施設の維持管理を考えたほうがよいのではないかと。将来の人口予測もされているが、もっと減る場合も考えられるので、施設の廃止や統合を実施する際には、少子高齢化が今後も進んでいくという観点で臨んでいただきたい。次に、P44 以降の実施方針の中で、地域住民の意見やニーズに応じてという記載が目立つが、今後具体的にこの施設を集約するとなったときには、広報でお知らせするのか、どのように周知していくのかがわからない。
事務局	本計画は 40 年間の基本計画にあたる部分であり、10 年ごとの具体的内容にあたる部分であるアクションプランを策定予定である。また、必要に応じて個別計画の策定もあるので、その中で、市民への周知、合意形成は具体的にいつ・どこで・どのようにというところは決めていきたい。
委員	生月の火葬場だけでも、数年に渡って話し合いがされている状況である。施設を廃止するという事は、利用の有無に関わらず、相当の抵抗があることは予想できる。しかし、行政として、公共施設の適正化というのは必ず実施しなければならないことなので、わかりやすく、丁寧に進めていただきたい。
委員	先ほど、少子高齢化を受け入れて施設の適正化を図ったほうがよいとの意見があったが、例えば総合戦略では子供を増やそうという施策を打ち出している。各課それぞれ施策があるが、他の施策との整合性をとりながら、向かう方向性は同じであってほしいと思う。
会長	その他の部分で意見があれば、あとで受付ける。次に、議題（2）本委員会諮問事項に対する答申について、事務局より説明をお願いします。
事務局	答申（案）について説明。
会長	今の説明について、意見をお願いします。
委員	ふるさと納税の増加により、一定の成果が見られるとした文章が気になる。市民目線ではふるさと納税で平戸市は潤っているという印象を持っているが、ふるさと納税は恒久財源では無いため、行革は必要なことである。それを、このような記載

	をすれば、ふるさと納税があれば行革は不要ではないかと受け止める人が出てくるかもしれない。
事務局	ふるさと納税が好調に増加したことは記載させていただきたいが、一定の成果に関する記述について、誤解を招かない内容に修正したい。
会長	他に、追加すべき意見等あればお願いします。
委員	先ほどもあったが、丁寧な説明対応かつスピーディな取組、他施策との連携を図った行革というものが求められる。この一文を加えていただければ最終的な意見が反映されるかと思う。
会長	補足資料についても意見等あればお願いします。
委員	詳細を言えばきりがないので、総括はこういう形で問題ない。最終的に成案となるのはどの段階か。
事務局	本日の意見を踏まえ事務局側で修正させていただく。最終確認については、再度集まっていただくのではなく、会長に一任していただければと思う。その後、会長から市長へ成案をお渡しさせていただきたい。
全委員	了承。
委員	総合管理計画も差換えや修正があるようであったが、最終的なものはいただけるのか。
事務局	そちらについても、修正後送付させていただく。
委員	市の公共施設については、要望に応じて対応いただけていると思うが、県の公共施設に対する要望については、県の所有であることを理由にきちんとした対応がなされていないと感じる。市民から見れば、同じ公共施設であるので、理解を得られる対応をお願いしたい。
事務局	県のことは県に聞いてくださいという対応ではなく、間を取り持つような形で、親切丁寧な対応に努めたい。
会長	地域の声を聞き取る手段はあるのか。
事務局	市民の意見はメールでも受け付けている。
会長	2年間、皆様おつかれさまでした。皆様のご健康をお祈りしまして、第10回行政改革推進委員会を終わります。

平戸市行政改革推進委員会委員（名簿）					
区分	氏名	所属・企業名	地区	職務	出欠
学識経験者	松永いづみ	松永いづみ税理士・行政書士事務所	平戸	会長	○
企業経営者	福田 詮	福田酒造（株）	平戸		×
	井元 宏三	（有）マルイ水産商事	生月		○
	吉永 享助	（有）平戸口 吉善商店	田平		○
市民代表者	黒崎 洋介	平戸市地域審議会委員	平戸		○
	岩井 誠	生月町地域協議会委員	生月	職務代理者	○
	早田 博子	田平町地域協議会委員	田平		○
	田中 範子	大島村地域協議会委員	大島		○
	松口 茂生	平戸市PTA連合協議会	平戸		○